

人権教育としての 多文化共生

渡邊洋子

京都大学大学院教育学研究科 生涯教育学講座

本日のお話

- 1 自己紹介
- 2 「同和・人権教育論」という授業
- 3 在日外国人の人権をどう扱っているか ①オールドカマーの問題
- 4 在日外国人の人権をどう扱っているか ②ニューカマーの問題
- 5 多文化共生と人権教育をめぐって

1 自己紹介

- 群馬県出身。
- 京都大学大学院教育学研究科生涯教育学講座の准教授。
- 主たる研究テーマは、専門職教育(医学教育)、欧米(特にイギリス)成人教育の理論と歴史、日中韓の伝統文化と生涯学習、ジェンダー視点に立った社会教育史など
- 本年10月の海外出張(韓国・イギリス)では、ソウル大学でのInternational Council for Educational Researchに参加して研究発表を行い、また、ロンドンとオックスフォードで、女性医師・看護師のキャリアヒストリーに関する聞き取り調査を実施。

2 「同和・人権教育論」という授業

- 京大教育学部の専門科目、教職選択科目、全学共通科目（2016年度まで）
- 半期の授業。2013年度から担当、受講者50～70人程度。
- テキスト 『21世紀の人権』（江原由美子編、神奈川県立人権センター）。
- 講義、配布資料の精読・吟味・コメント、ワークシートでの作業、2人・4人での話し合い、ビデオ視聴、小レポート（毎回）、ゲスト講師の講義、書籍回覧、最終レポート（フィールドワークを含む）。
- 「答え」を教える授業ではない。自分の眼で見て、自分の頭で考え、自分の心で感じ取り、気づくことを重視する。
- 「本当は何が問題なのか」「なぜ、こんなことになっているのか」「問題解決のためにどんな取り組みがなされてきたか」・・・資料やデータから、自らが読み取り、考える。

3 在日外国人の人権をどう扱っているか

①オールドカマー(主に在日コリアン)の場合

- 来日の背景 — 日本の対外侵略政策と歴史・社会的諸要因
- 戦後補償と日本政府の対応経緯
- 一世、および二・三世以後の基本的な人権およびアイデンティティをめぐる問題
 - 識字問題
 - 指紋押捺問題
 - 通名(日本名)使用の問題
 - 教育を受ける権利と民族的アイデンティティの問題
 - 歴史認識の問題
- ヘイトスピーチと差別意識

4 外国人の人権をどう扱っているか

②ニューカマーの場合

- 労働権保障の問題(特に、移民労働者・労働研修生)
- 在日外国人の安心・安全な生活保障
 - －衣食住
 - －医療・福祉、防災
 - －育児・子育て、学校教育(多文化教育)
 - －日本語・識字の学習機会
 - －地域住民との交流機会、社会活動 その他
- 永住外国人の参政権をめぐる動向と課題

5 まとめ一人権保障と多文化共生をめぐる重視するのは・・・

- 「自分とは違う」時代や環境を生きてきた／生きる人々への想像力、「同じ人間」としての共感性
背景や経緯については、「なぜ？」という問いをもちながら、事実を正確・客観的に捉える態度
 - オールドカマーの問題では、その人が「生きてきた事実／生きている現実」を直視すること
ex. 「日本人が嫌い」と言う在日コリアン三世の手記を、「なぜ？」と考えながら読んでみることなど。
cf. 残留・帰国中国人とその家族の問題は、外国人ではないが共通する課題があることも。
 - ニューカマーの問題では、「共生する」とは何かを、日常的・具体的に考えて行動に移してみること
— 異文化で生きる難しさや課題を共有して、その解消・解決に取り組むこと
— 互いの社会文化・生活習慣・価値観などの共通点と相違点を丁寧かつ具体的に理解すること
— 「違い」を味わい楽しむこと、「違い」によって生ずるトラブルや悩みに前向きに向かい合うこと
- ◎ 外国に出かけて異文化体験をすること ≒ 多文化共生が根づいた日常生活をともに創り上げること